



「明治ごんぼう」の魅力 食べてみたらわかるけえ

就農したきっかけは

実家が水稲栽培をしていたので、バスの運転手をしながら繁忙期には田んぼを手伝っていました。
本格的に就農したのは40歳頃です。当初は、水稲栽培を中心にしていましたが、地元である井原市芳井町の明治地区がごんぼう産地だったこともあり、55歳頃からごんぼう栽培も始めました。



本格的に栽培を始めて

ごんぼうは、3月下旬に種を少し播いて、残りは5月に播きます。種播きの後、最初の雨のあとに除草剤

を撒いて、ある程度大きくなったら追肥と草取りをします。その後は、ごんぼうの葉が大きく繁り日光が当たらなくなるので、草が生えにくくなります。収穫時期は11月～翌年3月までで、作業は2人でするのが効率がよいですね。重機で掘って手で抜く。これを1人でするととなると、時間が掛かってしまいますから。うちは、妻が仕事から帰ってからの2、3時間一緒に収穫作業をしています。

大変だったことは
ごんぼう作りは初めての事ばかり。ほとんど自己流だったので、肥料の撒き方も分からず、間違った方法でごんぼうの先が枝分かれしてしまっただけ。先輩生産者に聞いたり、特にご近所のおばあちゃんには一から教えてもらい助かりました。思うように出来るまでには2、3年かかりました。

出荷をはじめ

最初のうちは、ほとんどご近所や知り合いなどに配っていました。そ

のうち近所の人から直売所への出荷を勧められました。小さいごんぼうは捨てていたんですが、これも近所の人曰く「使い道はある」それで、束にして出荷すると売れました。



現在～今後は

やりがいと言っただけでしょうか。やっぱり良いごんぼうが出来た時は嬉しいですね。地域的なことや体力的な事が原因でごんぼうを作る人が減っています。元気がうちは続けたらいいと思います。

11月には「明治ごんぼう振興協議会」が設立されました。これを契機に生産者、特に若い人が増えてくれたいと思います。

明治ごんぼう振興協議会

平成29年11月20日設立
構成員：イオンリテール株式会社、明治ごんぼう村運営協議会、岡山県備中県民局農林水産事業部、井原市、JA岡山西

厳しい環境の中、生産者が守り続けてきた「明治ごんぼう」の栽培方法の伝承と担い手の育成、明治ごんぼうが競争力のある特産品として飛躍することをめざし、関係機関が連携して設立。



【明治ごんぼう振興協議会】

河合 繁さん

かわい しげる／69歳
就農して29年／水稲4.5ha、明治ごんぼう10aを経営。